

我が国における牛海綿状脳症（BSE）対策に係る

食品健康影響評価（修正案）

目次	頁
1. はじめに	1
1. 1、経緯	1
1. 2 審議開始にいたるまでの主な論点	2
1. 2. 1 「中間とりまとめ」案の座長及び座長代理一任後の検討の経緯	2
1. 2. 2. 諮問の内容に関する主な議論	2
①BSE 検査月齢の見直し	
②トレーサビリティ	
③飼料規制	
④ SRM 除去とピッシング	
1. 3 審議の基本方針	3
2. リスク評価に関する基本的考え方	4
3. 諮問項目に関する評価と見解	7
3. 1、定性的リスク評価	7
3. 1. 1 定性的リスク評価の考え方	7
3. 1. 2 主な論点	9

①飼料規制の実効性	
②BSE 検査	
③SRM 除去	
④ピッシング	
3. 1. 3 BSE 検査対象月齢の見直しに伴う定性的リスク評価 (たたき台としての記入例)	1 1
3. 1. 4 定性的リスク評価による検査月齢の見直しに関する見解	1 2
3. 2、 B S E検査月齢の見直しにかかわる定量的リスク評価	1 2
3. 2. 1 暴露リスクの面からの評価 BSE 検査月齢の見直しにかかわるリスク評価 (試算)	1 2
3. 2. 1. 1 評価モデル	1 3
①と畜場における全頭検査によるリスク回避	
②と畜場における安全なと殺法	
③特定危険部位 (SRM)の除去	
④背割り前の脊髄吸引によるリスク低減	
3. 2. 1. 2 日本における BSE 汚染	1 7
3. 2. 1. 2. 1 飼料規制前 (1996 年から 2001 年まで)	1 8
3. 2. 1. 2. 2 飼料規制後 (2001 年 10 月から 2003 年 6 月まで)	2 0
3. 2. 1. 3 日本における BSE の人への暴露リスク (2005 年)	2 1
3. 2. 1. 3. 1 感染価に関する考え方	2 1
3. 2. 1. 3. 2 BSE 検査と特定危険部位除去により低減される暴露リスク	2 2
3. 2. 1. 3. 3 BSE 検査を 21 ヶ月以上とした場合の BSE の人への暴露リスク	2 3
リスク評価－シナリオ－1	
リスク評価－シナリオ－2	

3. 2. 2	確率論に基づく定性的リスク評価の具体的方法 定量的評価の考え方 (P 3-9-4-2) SRM 除去によるリスク低減効果の定量的リ スク評価	2 4
3. 2. 3	定量的リスク評価による検査月齢の見直しに関する見解	2 4
3. 3	SRM 除去によるリスク低減効果に関する見解 と畜・解体法の実態	2 4
3. 4	飼料規制に関する見解	2 6
	① (輸入飼料に係る交差汚染の防止)	
	② (販売業者における規制の徹底)	
	③ (牛飼育農家における規制の徹底)	
3. 5-3	BSE に関する調査研究の一層の推進	2 7
<u>4.</u>	<u>結論 (議論の結果をまとめる)</u>	2 8
	定性的評価	
	定量的評価	
	結論のためのアルゴリズム	
<u>5.</u>	<u>おわりに</u>	2 8
	<u>参考文献</u>	2 9

(参考1) 「今後のために」

3. 3. 1 SRM 除去によるリスク低減効果の(準)定量的リスク評価モデル(私案)	32
3. 4. 1 飼料規制によるリスク低減効果の定量的リスク評価モデル(私案)	35
飼料に関する定量的リスク回避の考え方(モデル) - 1	
飼料に関するリスク回避の定量的評価の考え方(モデル2)	
飼料に関するリスク回避の定量的評価の考え方(モデル)	
3. 2. 2 定性的リスク評価の具体的方法確率論に基づく定量的評価の考え方	38
①各入力データInput情報のランク付けと出力データOutputの判定	
②データ間のギャップ、制約にかかわる問題点	
③各入力データInput情報の順位ランク付け	